

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会
2023 年度総会議事録

日時 2023 年 10 月 28 日 13:45 ~ 14:42

場所 3 号館 110 号講演室

1. 開会

司会者の岸本展常任幹事(広報)によって総会の開始が宣言された。

2. 会長挨拶

総会開催に当たり井川満会長より挨拶があった。

コロナ禍により 4 年ぶりに総会を開く、様々な事項に関して 4 年分の審議を行うので宜しくお願いしたい。

3. 議長選出

司会者より、議長の選出について会則の運用細則第 3 条 (a) により「役員構成員および監査役以外から選ぶと規定されている」と説明があり、議長の推薦を受け付けた。会場から推薦が無かったため、司会者から日野正訓会員を推薦したい旨の提案があった。日野会員を議長としてよいか諮られ、承認された。

4. 書記の選出・議事録の作成

議長より、書記の推薦を受け付けた。会場から推薦がなかったため、議長から中山素生会員を推薦したい旨の提案があった。中山会員を書記としてよいか諮られ、承認された。続いて、議長より、議事録作成手順について提案がなされ承認された。

5. 報告

(a) 2019 年度, 2020 年度, 2021 年度, 2022 年度の活動報告

議長より会長に報告を求め、会長より以下の報告があった。

○同窓会の行事について

通常開催する行事は総会・講演会・懇親会であるが、2020 年度, 2021 年度, 2022 年度は中止せざるを得なかった。

○学位記授与式への参加について

卒業生のお祝いをすることは勿論であるが、卒業生の連絡先を確保する機会である。

この機を外すと卒業生への連絡先を確保できない。それで、数学教室と相談し、学位記授与式に参加させていただき、この機会を捉えて卒業後の連絡先、特に e メールアドレ

スを確保している。

2019 年度(2020 年 3 月) は、学位記授与式が中止され、学部生について学位記は、理学部の総務の窓口で個別に受け取るか、郵送を希望するかのいずれかであった。同窓会としては何も動くことができなかった。修士課程の学生に関しては数学教室の部屋で学位記を渡すので、その際に学生から連絡先の確保ができた。

2020 年度は、大学全体の授与式が、"みやこめっせ"で行われた後、理学部では 6 号館の 401 号室で学位記を手渡すことになった。その部屋で数学同窓会のコーナーを作り、お土産を渡す一方で同窓会に対しての卒業後の連絡先をお願いし、ほぼほぼ卒業生の連絡先を確保することできた。

その後は、数学教室での学位記の手渡しを行う状況となり、連絡先の確保ができています。

○会誌の発行について

会誌は、休むことなく 2020 年度、2021 年度、2022 年度、2023 年度に発行した。

会誌発行は活動計画に含まれ総会で諮らねばならないが、事後承認をお願いする。

一昨年度に森重文会員が文化勲章を受章され、また望月拓郎会員が Breakthrough Prize を日本で数学分野では初めての受賞をされたことに関して会誌を出すことができた。

会誌発行のもう一つ大切な役割は、会員の消息・連絡先の確認である。

あて先不明で返送されたものに関し事務局で対応しているが、e メールで連絡すると、新しい住所はほぼ把握ができています。

○同窓会の愛称の募集について

議事において改めて説明するが、コロナの影響で愛称募集が宙に浮いたままである。

2020 年度の総会で結論を出すことになっていたが、対面での役員会、総会を開けなかったため 3 年間に亘って選考に手を付けることが出来なかった。

(b) 2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度の会計報告・監査報告

議長より、吉川謙一常任幹事(経理)に報告を求め、吉川常任幹事より資料に沿って報告があった。また、徳田裕也監査役、稲生啓行監査役により確認済みである。

2022 年度の年会費 816,000 円の収入に関して、小磯深幸会員、中山会員より、質問があった。事務局で確認したところ、「寄付 500,000 円、年会費 816,000 円」は誤りで「年会費 500,000 円、寄付 816,000 円」が正当であると報告があった。

なお、年会費に関しては、収めている方が徐々に増えていること、過去に遡及して 5 年分の払込みの方も複数あったことが補足説明された。

(c) その他

議長より、事務局から用意しているものはないが、会場の参加者からの提案はないか確認したがなかった。

6. 議事

議長が、議案(a)活動報告、会計報告・監査結果の審議に関して、何か発言はないか確認したがなかったので、2022年度の会計について寄付と年会費を訂正のうえで決議を取り、挙手多数により議案(a)が承認された。

次に、議長より、会長に議案(b)~議案(e)の説明を求め、会長より以下の説明があった。

議案(b) 2023 年度活動方針

- ・総会、講演会、懇親会の開催
- ・同窓会誌の発行
- ・学位記授与式の開催、課題研究のクラスの写真撮影

議案(c) 愛称募集について

2018年度の総会で愛称募集が決議され、応募された愛称案を役員会で諮ったが、誰もが納得するような案がなかったため、募集をもう一年延長することにした。その後コロナになってストップした。愛称を必ず決めると宣言して募集はしていないこともあり、先の役員会で愛称については断念することを決議した。その代わり会長が応募者に対して丁寧なお詫び状を出すこととする。

議案(d) 2024~2025 年度役員選出

役員会の推薦する候補者について説明があった。現役員からの変更点は以下の通り

- ・井川会長が会長を退任し、重川一郎副会長を会長とする。
- ・井川会長、國府常任幹事を副会長とする。
- ・徳田裕也会員(現監査役)の数学教室での役職任期満了に伴い、徳田会員に代えて、山内宗幸会員を監査役とする。

議題(e) 会計の余裕分について

2022年度の決算報告にあるように、2023年度への繰越が428万円余ある。

総会・懇親会を開催しなかったこと、大口の寄付をいただいたことによる。この余裕分の活用を考える。賞を設けるとか、会員の外に向けての活用をするとかの意見を頂いたが、活かしきる力がなかった。良い案があれば機会を捉えてお知らせ頂きたい。

議長が会場に発言が無いか確認したところ、以下の質問と指摘があった。

- ・質問者(不明)から、愛称募集での応募の件数、どのような案があったか。
⇒資料を持ち合わせていないので即答できないが、20強の応募だった。
- ・木坂常任幹事、中山会員から、資料にある役員候補者の記載について指摘があった。
常任幹事 木坂正史(1989年、書記) ⇒1989年卒
監査役 山内宗行 ⇒ 山内宗幸

議長より、議案(b)~議案(e)に関し、役員候補者について訂正のうえで決議をとり、挙手多

数により承認された。

松本常任幹事より次の発言があった。

今回の総会資料は、次第に役員会議事録の添付のみで、議案書にあたるものがない。

議案書としては、役員会議録とほぼ同じ内容になるのであろうが、審議事項について改めて議案書として作成すべきである。

⇒議長より、議案書について作成し、出席者に配布を検討することが提案された。

小磯会員から次の確認があった。

「2021 年度第一回役員会の(10)定松隆氏の特別会員への推薦」の手続きとしては、総会に諮る必要はないのか。

⇒会長より、役員会での承認で十分な事項であるとの説明があった。

松本常任幹事より、総会での報告が必要ではないのかと質問があった。

⇒会長より、既に会誌に載せており報告済みであるとの説明があった。

議長より、議事終了の旨の発言があった。

7. 閉会

司会者によって総会の終了が宣言され、総会は閉会となった。

以上